



第35号

発行/社会福祉法人 素心会
責任者/彦坂 健一郎
〒259-0103
神奈川県中郡大磯町虫窪24番地
TEL.0463-71-1255

自活訓練事業!

素心学院では、平成14年9月から、平成15年1月までの間、大磯町内にあるアパートを借りて、男性利用者4名による自活訓練事業を行いました。



大集団から個別化された環境の変化は、個々の生活スタイルを自然と作り上げていった。今まで体験出来なかつた喜びを肌で感じ、当たり前の暮らしとして送っていた姿はとても生き生きと輝きを感じた。ホーム内の生活の豊かさは、学院での居心地の悪さに比べたら一目瞭然であった。個人のプライバシーは守られ、他者からの干渉は殆どなく穏やかな雰囲気が流れていた。私達職員の立場においても、本人の意思による選択や意思を尊重する事も、その都度ゆとりある満足出来る対応が出来たと思っている。今回の自活訓練を終了して参加した4名は何を感じるのでしょうか? 事実、学院での生活が復活します。そこにはここで言う当たり前の生活があり得るでしょうか?



(瀬戸)

むしくぼ
虫窪
24
番地

第百三十九回理事会

理事会の動き

業を推めることを決定した。
二、大磯町障害者生活支援事業を受託することを決定した。

一、平成13年度の各事業及び決算について承認した。
二、監事飯田勇が任期満了により退任した者は、全役員を再任した。代表理事は互選により遠近教英、常務理事は指名により彦坂健一郎が就任した。又新たに監事として片平憲司を選任した。

近教英、常務理事は指名により彦坂健一郎が就任した。又新たに監事として片平憲司を選任した。

「苦情処理」報告



アンケート回収結果報告
本期の回収数は、25通で、主な内容は次のとおりでした。

- 利用者に関する要望、気づいた点(計9件)
- 車で出かけたい。外出したい。
- 家に帰りたい。
- 個別支援計画書の活用について情報がほしい。

一、平成15年4月1日より素心デイセンターの定員を10名増員し50名に、あわせてデイサービス事業を8名の定員で実施することを決定した。

二、新しい準則に添って定款を改正することを決定した。

三、幹部職員の人事について次の通り決定した。

法人事務局長 彦坂健一郎・
素心学院施設長 萩原勝己・グ
ループホーム施設長 渋見 茂・
素心デイセンター施設長 伊藤
倫博(留任)

社会福祉法人素心会後援会
会長 鈴野七郎

会費は個人 年一回 1,000円です。
団体・会社 10,000円です。
会員には新聞「そしん」が郵送されます。

「障害のある人やお年寄りに優しい町はすべての人に対しても優しい町である。」
私たちと共に福祉を考え支え、参加して優しい町づくりを目指しませんか?

素心会の後援会
の会員を募集しています。

ご希望の方は事務局までご連絡ください。

会員には新聞「そしん」が郵送されます。

その他にも、納涼祭や秋祭り、ボランティア奉仕日などのご案内をお届けします。
後援会では会員の方に無理のない、いろいろな協力や参加のかたちを考えております。

①銀行振込は
中南信用金庫 本店 011-0350220
横浜銀行 大磯支店 651-1109788
②郵便振替は
どこ郵便局でも00270-0-19507です。
③口座名は

社会福祉法人素心会後援会
会長 鈴野七郎

※新しく会員になる方はご住所を電話等で知らせただくようお願いします。

事務局 平成14年5月～平成15年3月
ボランティア 1通
実習生 12通
その他 3通
回答者別区分

保護者 9通
(素心学院 10通)
素心デイセンター 15通)

事務局 〒259-0103
神奈川県中郡大磯町虫窪24番地
素心会内 *担当 彦坂/高瀬
TEL.0463-71-1255 FAX.73-0009

(現在会員数) 300名

◎職員の対応、運営全般について(計11件)
・余暇のバリエーションがもっとあれば良い。
・職員は利用者ともっと触れ合う時間があるって良い。

◎協力ありがとうございます。
た。ご指摘のあった点につきましては、各項目別に検討し改善に努めてまいります。
アンケート用紙、投入箱は各施設事務所前に備えてあります。
今後ともよろしくお願いいたします。

編集後記

自活訓練に参加させて頂き、利用者の秘めたる力を目の当たりにした。「地域で暮らしていく事」本当に、望んでいるのは、利用者自身である事を当たり前の事作ら痛感した。(吉田)

・職員が、過度のコミュニケーションで利用者が怒っている場面があった。
・女性の利用者にはデリケートな問題であるので、家庭からは女子職員への連絡が円滑にできるよう工夫してほしい。

・アドバイスや指導を求めている。
・手をつなぎたり、抱きついだり。
・仕事がもっと増えればいい。
・音楽や運動が好きな人にはそのような機会が増えると良い。

◎その他(計6件)
・何れも実習生よりも他の人が多い。

・ハエが多い。

特集 「自活訓練事業報告」

第36号 2003.5/発行 (2)

そしん

1 新しい「障害者基本計画」

昨年末、厚生労働省による新しい「障害者基本計画」とび「重点施設実施5ヶ年計画(新障害者プラン)」が策定され、15年度から10年間の政策の方向性、新たな5年間の目標が設定されました。新しい障害者基本計画は、現行計画における理念を継承するとともに、障害の有無に関わらず、国民誰もが相互に人格と個性を尊重し支えあう「共生社会」の実現を目指すことを基本的な考え方っています。

この計画は八つの分野で構成されていますが、その中の「生活支援」(図・表1)分野に施設サービスのことが触れられており、「①身近な相談支援体制の構築、利用者本位の生活支援体制の確立②ホームヘルプサービス、グループホームなど在宅サービス等の充実③雇用、就業政策の推進、年金や手当等の給付による経済的自立の支援」に加え、「④入所施設は真に必要なものに限定すると共に、施設を在宅支援の拠点として地域の重要な資源と位置付け活用する」とされ、施設サービスの再構築が重点課題に挙がっています。

2 地域生活移行への取組み

新しい障害者基本計画や支援費制度の考え方は、地域生活支援の推進にあり、施設は一定期間の訓練の場

(5)時間 6時～翌朝8時

(6)個人負担金 0円

(※グループホームに置き換えた場合の個人負担額を表2に掲載)

として再認識されています。長い間続いた措置費制度からの移行は、さまざまな反応を生んでいるようですが宮城県事業団における入所施設の解体宣言や三重県名張市の入所施設新設計画の廃止、高崎コロニーの取り組みのことなど入所施設の再構築への取り組みが始まっています。こうした社会の動向を踏まえ、素心学院でも利用者の地域生活への移行を模索していくことに今まで以上に積極的にならなければならないと思っています。

①入所更生施設との比較についてのアンケート結果(配布18有効回答13)

3 自活訓練事業

自活訓練事業は入所措置者に定期間グループホーム等在宅生活を想定した環境を提供し、地域生活の可

能性を高める事業です。以前から措置制度の中の事業として位置付けられてきましたが、支援費制度に移り重度利用者にも適応しやすい制度として見直されました。前号の機関紙で一部紹介しました通り、昨年度から素心学院でもこの自活訓練事業を開始しました。

事業の概要は次の通りです。

①場所	神奈川県中郡大磯町大磯1327
②間取り	4LDK
③家賃	11万5千円
④利用者	男性4名

設問1 利用者の生活の質は変わったか

回答 変わった 13
変わらなかった 0

内容 自分の生活スタイルが確立できる
プライバシーが守られる
主体性が向上した

設問2 利用者は変化したか

回答 変わった 13
変わらなかった 0

内容 自信に満ちている
表情が豊かになった
言葉が増えた

設問3 職員の仕事の質は変化したか

身辺処理、家事に参加するようになつた
他者への協力が増えた
動作が早くなつた
施設でも積極的になつた

設問4 職員の仕事の質は変化したか

身辺処理、家事に参加するようになつた
他者への協力が増えた
動作が早くなつた
施設でも積極的になつた

②職員の感想(抜粋)

ある程度は予想していたがそれよりはるかに利用者が地域で暮らし、集団ではなく個別化された当たり前の暮らしをすることに喜びを感じていてることを知りませんでした。「日々の日課を終えるとアパートへ行くことが楽しみで仕方ない」利用者全員が同じ思いでいたようだ。職員側としても集団の中の一人として捉えていた個人と、より個別化された形で見る個人とでは大きく違つて見えた。集団を動かしていくときに何より安全が第一で事故を起こさぬよう細心の注意を払う。最も大切なことはあるが、これに終始してしまい個人の可能性を広げていくよりは無いように思う。ついで、「危ないから」「職員がやるから」と言つて利用者の自發的な行動も制止してしまっている。

また順応性の高さにも驚いた。当初懸念していた様な事項も入所所という大集団の中でこの利用者を知つ

4 終わりに

今も病気や怪我で入院している利用者が何人かいました。慣れない病院のベッドの上でどんなにか心細い思いをされているかと思います。立派な理念に基づく制度であっても、利用者や家族に過度の不安や負担がかかりようであつてはいけないでしょう。障害者基本計画も、支援費制度も実態が今までと比べどう推移していくのかわかりません。しかし根底に流れているのは利用者の自己実現という理念です。「本当はどうしていいのか」自分や自分の家族の前の利用者の未来についてみんなでよく考えていくたいと思っています。そのことを探るための手段の一つとして自活訓練事業を利用していただきたいと思います。

さらに、自分のことだけでなく自発的に他人を気遣い、食事の配膳、下膳、おやつを配りしめる様子も見られた。少人数で生活感があり、個々のプライバシーが守られ、職員に時間的、精神的な余裕があることで、本来、利用者にあつた性格とその人らしさが自然と現われたようを感じる。

午後の作業が終わつた後、早々に荷物を持ちグラウンドへ出て待つていたこと、中止になつてしまつた時の本人達の様子などから、アパートでの生活がよっぽど楽しかったんだろうな、ということは十分に感じ取ることが出来た。突然中止が決まつた時、夕食拒否して不満を表していた。当日の朝に「今日はアパート行かない日」と伝えられるなど、険しい表情になつてブツブツ呟きながら寮内をウロウロ歩き回つてゐる姿も見た。

たくさんの飾り付け、全てにハロウインにちなんだ工夫が盛りだくさんで、いつもと一味違うディズニーランドを楽しんできました。(浅野)

(浅野)

温泉旅行①



平成14年10月17～18日、ディズニーランド旅行に行って来ました。ちょうどハロウィンの時期と重なった為、ディズニーランド内はカボチャのオバケ一色!! 各キャラクターの衣装も、食事のメニューも、パレードも、

学院→



平成14年の11月25～26日、学院利用者20名と共に千葉県南房総へ旅行に行ってきました。宿泊場所の南国ホテルでは中国雑技団ショーを開催していて、温泉・宴会の後は全員で人間技とは思えないショーや観ました。

一時間半の間、利用者も職員も驚きと感動で無言でした。笑顔や笑い声が無くなつて、こういう楽しみ方もあつたよね。(鈴野)

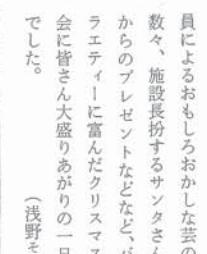
クリスマス会

平成14年12月20日、冬の一大イベント『クリスマス会』を行いました。今年度は『利用者の会』で出された意見やアンケート



もちつき大会

平成14年12月27日、晴天に恵まれたその日、餅つきが開催されました。準備に手間取り30分遅れての開始に待ちぼうけの皆さんには御迷惑をおかけしました。しかし、そんな中一端片が振り下ろされると寒さも何のその、力強い声で「ヨイショ」と震耳が一転、グラウンドに熱気が溢れました。(菅谷)



トと一緒に会を企画、大きなツリーを囲んでのお食事や班の職員によるおもしろおかしい芸の数々、施設長扮するサンタさんからのプレゼントなど、バラエティーに富んだクリスマス会に皆さん大盛りあがりの一日でした。(浅野)

(浅野)



トと一緒に会を企画、大きなツリーを囲んでのお食事や班の職員によるおもしろおかしい芸の数々、施設長扮するサンタさんからのプレゼントなど、バラエティーに富んだクリスマス会に皆さん大盛りあがりの一日でした。(浅野)

楽しい行事

←ディセンター

ディズーシーバート2



(7) 第36号 2003.5/発行
16名でディズニーシーへ行って来ました。当日は天気にも恵まれて、みんなでミッキーマウスのレビューを見たり、スリルのあるアトラクションを楽しんだりしました。なんだかたくさん歩いた気もするけど、みんな満足だったかな???

(七田)

忘年会



平成14年9月20～21日、総勢16名でディズニーシーへ行って来ました。当日は天気にも恵まれて、みんなでミッキーマウスのレビューを見たり、スリルのあるアトラクションを楽しんだりしました。なんだかたくさん歩いた気もするけど、みんな満足だったかな???

(七田)

伊豆旅行



平成14年11月15～16日、伊豆長岡温泉へ行つきました。今回電車とマイクロバスに分かれてという初めての試み。初日は温泉と宴会。二日目はシーパラダイスを見学。丁度見頃の紅葉も味わう事ができ旅行気分を満喫した秋の一日でした。(大野)



ワークショップ

平成14年11月2日、毎年「おんらくコンサート」でお世話になっている音楽家(おんらぐか)の鈴木キヨンさんを招いて、ひょうたんを使ってマラカスを作りました。自分の作ったものでみんなで一緒に音をだし、リズムに乗つて体を動かして楽しみました。(内山)



成人式と新年会

平成15年1月10日、ディセンタにて、仁科敏之さんと西田英明さんの成人式を行ないました。あいにく仁科さんは都合が悪く欠席でしたが、素心会関係者の挨拶、記念品贈呈の後、みんなからは歌のプレゼントで新成人の門出を祝いました。その後食堂にて新年会を行ない、カラオケで盛り上がりました。(七田)

番外編



▶晩秋のヤキイモ大会。上手に焼けておいしかった。

▶ビガーテンでタ涼み。流れソーメンは大盛況!!

▶個別外出のひとコマ。人力車にゆられて鎌倉巡り



トと一緒に会を企画、大きなツリーを囲んでのお食事や班の職員によるおもしろおかしい芸の数々、施設長扮するサンタさんからのプレゼントなど、バラエティーに富んだクリスマス会に皆さん大盛りあがりの一日でした。(浅野)

(浅野)

「ナイトケアスタッフ紹介」

佐野 恵子 鍵和田芳枝 石川 京子
(平成14年11月～) (平成14年11月～) (平成14年11月～)

「お化粧ボランティア」

資生堂小田原支社の方々のご協力で、お化粧指導のボランティアを、年3回行いました。沢山の利用者が参加し、美しくなった姿に笑顔があふれています。(吉田)



「新任看護師紹介」



皆様はじめまして。

平成14年9月から勤務しております結城琴子です。雪の多い箱根から通勤しておりますが、大変の暖かさには驚いています。まだ数ヶ月ではあります、末長く宜しくお願ひします。

「新任看護師紹介」

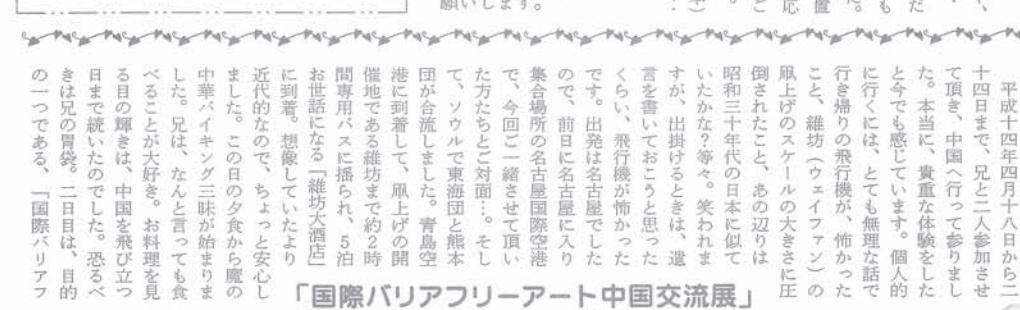
学院女子寮改築

素心学院女子利用者の平均年齢は五十歳を過ぎ、これまで「高齢化」に向けて検討してきましたが、加齢による変化は早く、また疾病による生活の変化にも対応すべく、昨年末に二号室、三号室の居室の壁を半分取り除き、7名分の専用居室に改築致しました。

少し人数で会話をしながらの食事や、椅子に座っての洗面やハミガキは、車イスや歩行器を使用している方だけではなく、介助する職員にとっても安心して過ごせる時間になりました。

また、夜間は専任の当直者を配置し、七名の方の様々なニーズに対応しています。今後も、安心して過ぐれる生活づくりに努力を続けます。

(坂本)



「国際パリアフリー・アート中国交流展」

河辺 美知子



▲自作品の前で／沢井 博・河辺美知子

「国際パリアフリー・アート中国交流展」

平成十四年四月十八日から二十四日まで、兄と二人参加させて頂き、中国へ行って参りました。本当に、貴重な体験をしたく、何度も感じています。個人的に行くには、とても無理な話で行き帰りの飛行機が、怖かったこと、潍坊（ウェイファン）の風上げのスケールの大きさに圧倒されたこと、あの辺りは昭和三十年代の日本に似ていたかな？等々。笑われますが、出掛けるときは、違う言い方で書いておこうと思ったくらい、飛行機が怖かったです。出発は名古屋でしたので、前日に名古屋に入り集会場所の名古屋国際空港で、今回一緒にいたたちはどこに泊まっている？等々。笑われます。

そこで、ソウルで東海団と熊本団が合流しました。青島空港に到着して、風上げの開催地である潍坊まで約2時間専用バスに揺られ、5泊お世話になる「潍坊大酒店」に到着。想像していたより近代的なので、ちょっと安心しました。この日の夕食から麺の味が大好き。お料理を見ると、目の輝きは、中國を飛び立つ日まで続いたのです。恐るべくは兄の胃袋。二日目は、目的の一つである、「国際パリアフ

アート中国交流展」の開会式でした。翌日二十日は、第九回潍坊の国際風上げ大会開会式。その後、大通りに出で自抜き通りを華やかなパレードが始まりました。なんか、手振りながら歩いていると、写真撮影されたりしてちょっととした芸能人気分でした。その日は、強行撤去・梱包、中国最後の泊まりとなる、青島に向きました。そう、とうとう6泊を何とかクリアしたのです。最初は、皆さんは初対面でどう接していいかもわからなかつたのですが、ソウルの空港で熊本団の方たちと一緒に泊まりました。

私は、最後の思い出みたいに、ソウル空港で持つて行ったカメラを置き忘れ、取りに戻ったときは、別れる時は、胸にこみ上げるものがありました。私は、最後の思い出みたいで、無くした自分にそれを言いました。名古屋から、自宅まで最後の気力を振りあらせました。名古屋が、本当に圧巻でした。夜も閉会式や花火大会があったのです。

「ゆうあい サッカー大会」



浩重が学院にお世話になっており、早や30数年になるとしており、その間、いろいろありました。が、大過なく過ごしてきました。定例の帰宅時においては、2、3日もすると、「がっこう、がつこう」と帰院をせがんでおりました。

ところが3年前から視力の衰えとともに精神状態が不安定になり、一種のパニック状態になりました。学のレベルでは、治療困難な「難病」であることが判明しました。現在ではほぼ視力が失われています。家族も、どうする事も出来ず心を痛めるばかりでした。その様な中、学院の皆様には、この様な状態をしっかりと受け止め、試行錯誤を繰り返しながら日常生活の介助を行って

れた事と思います。複数の病院の診察を受けましたところ「網膜色素変性症」という現在の医学のレベルでは、治療困難な事を思いました。複数の病院にて見守っていました。これからも、学院の皆様と共に、浩重の今後をしっかりと見守っていきたいと思っています。浩重の今後をしっかりと見守っていきたいと思っています。(金田祐政)



平成14年11月17日、県立体育センターにて大会が行なわれた。

結果は、一勝一敗で準優勝し、トロフィー片手に皆で喜んだ。このトロフィーの裏には、参加選手の名が刻まれ、学院食堂前ギャラリーに飾られている。

さて試合内容は？コーチングするが、珍プレー続出だった。しかし選手が楽しくプレーをした事が大事なので、内容はおいておきましょう。(小林)

入退所
平成14年度ディセンターメンバーが増えました。
石田技理子さん
元井美佐さん
藤崎恵美子さん
道家孝和さん
の4名が通所を開始してます。皆さん素心にも徐々に馴じてきました。今後も、楽しく過ごせるといいですね。(紹介が遅くなってしまい、すみませんでした)



第二回利用者の会
平成14年7月31日
参加者29名、司会者 加賀谷さんで、秋祭りの模擬店決めを行いました。(やきいも・最中・たい焼き・やきとり・アメリカンドッグ・4つ)が決定しました。そして秋祭りで、利用者の会から出た4つの模擬店が並びました。

第三回利用者の会
平成14年9月30日
参加者30名、司会者 和田竜一さんで、イベント企画委員会から用意された、クリスマス会の案を各項目に分けて多数決を行い提案しました。クリスマス会の雰囲気・昼食メニュー・ケーパー(?)の4つが決定しました。そして秋祭りで、利用者の会から出た意見ほとんどが実現しました。

利用者の会では、その他に他施設の自治会見学へ池田さんと柳田さんが行き、見てきた事を利用者の会で発表したり、青空パーティーに参加したりと、他の施設ではどの様な事をしているのか見て知って頂く取り組みもしています。

会 자체も回数を重ね、少しずつ定着してきたかなと感じられる様になってきました。(佐藤)

利用者の会報告

